

忘れないで特定失踪者 大政由美さん

2003(平成15)年1月発表 特定失踪者(特定失踪者問題調査会)
現在日本の特定失踪者数470人
(公開者270人 非公開者200人)
拉致被害の確率の高い失踪者数74人。うち愛媛県出身3人



家族の切なる願い
一刻も早く取り戻したい
毎日笑えない、涙の生活
一緒に暮らしたい
本当の笑いを家族に
拉致被害者としての認定
政府に要望

失踪当時の由美さん



失踪年月日 1991(平成3)年3月28日
生年月日 1967(昭和42)年4月5日生
当 時 年齢23歳 身長 150センチ
三重大学研究生
特 徴 下唇の下に縫合跡
(2才6カ月の時5針くらい)
失踪場所 韓国慶州市

失踪状況
1991(平成3)年3月25日、三重大学人文学部社会学科を卒業。翌26日、以前から興味をもっていた考古学、韓国の旧跡を訪ねるため下関から関釜(かんぶ)フェリーに乗船。27日、釜山港から韓国入国。バスで慶州市内観光後、同市の鶏林ユースホテルに宿泊。翌28日、部屋に荷物を置いて同ホテルを出た後、午後忽然と行方不明、同年4月から現地警察による捜索が開始された。

《家族連絡先》 大政峰男さん・悦子さん
伊予市下吾川1382-5 電話089-982-2385



慶州警察署 団長挨拶捜索依頼



韓国の日本大使館 邦人保護願い

2003(平成15)年5月14日～16日
愛媛県人拉致疑惑調査団一行20人(うち伊予市関係者6人)が訪韓
(愛媛拉致議連 会長 森高康行)

由美さん失踪後、母親悦子さんが6度目の韓国訪問
慶州警察及び日本大使館に捜索依頼と邦人保護の願い。

愛媛県出身 特定失踪者



二宮 喜一さん

失踪年月日 1962(昭和37)年9月頃
生年月日 1938(昭和13)年1月15日
当 時 年齢24歳 身長157センチ
会社員・夜は専門学校生
失踪場所 東京都品川駅

失踪状況
1962(昭和37)年9月頃、「ちょっと頭を冷やしに十和田湖へ行って来る」とメモを残して失踪した。東京の下宿には荷物とその月の給料がそのまま残され、品川駅で喜一さんのセカンドバッグが発見された。その後、警察当局により捜査が開始されたが、現在に至っても行方が分かっていない。

《家族連絡先》 森 八千代さん(喜一さんの姉)
今治市玉川町高野甲158-2 電話 0898-36-8025

山下 綾子さん



失踪年月日 1971(昭和46)年4月
生年月日 1942(昭和17)年9月20日
当 時 年齢28歳 看護師
失踪場所 愛媛県今治市

失踪状況
1970(昭和45)年に結婚のため大阪から今治に帰郷。同年5月14日、地元の青年と見合い結婚し、地元の外科病院に勤務しながら結婚生活を過ごす。昭和46年4月のある日、今治駅に自転車を置き忽然と姿を消した。新居には大阪の産婦人科病院で働いた退職金や貯金通帳・印鑑・看護資格証などもそのままの状態、着替えなども一切持っていない。家族で四方八方手を尽くして探し続けているが、いまだに何の手掛かりもなく現在に至っている。

《家族連絡先》 長島清志さん(綾子さんの従兄)
今治市大正町7-1-3 電話 0898-33-3660

拉致問題は私たちにとって身近な問題

必ず生きている きっと会える! 拉致救出を
～市民の皆様の温かいご支援とご協力を～

母親大政悦子さんの叫び

拉致問題に関心を・怒りの声を上げ続けて欲しい

しあわせ

拉致問題の早急な解決を

～特定失踪者大政由美さん救出に関心とご協力を～



帰国した5人の拉致被害者
政府 拉致問題対策本部

2011(平成23)年 1月 発行

伊予市教育委員会
愛媛県人権教育協議会伊予市支部

愛媛での拉致被害者救出運動

北朝鮮による拉致問題を考える愛媛県民会議 救う会愛媛



会長 中矢民三郎氏

2003(平成15)年
3月 救う会愛媛並びに愛媛拉致議連設立
5月 大政由美さん行方不明の真相究明を求
める連絡会設立(会長 重松罔右)
2008(平成20)年7月6日
松山市民会館に約3000人参集
拉致被害者を救出する愛媛大会開催

拉致被害者を救出するぞ！国民大集会 in 愛媛



「ふるさと」大合唱

拉致被害者家族 横田さん・有本さんは訴える

- なぜ、こんなに解決が遅れるのか。一度だけでいいから子どもを抱きしめさせて欲しい。
- 政府は、サミットで堂々と子どもを返せと言って欲しい。

大政由美さん失踪

1991(平成3)年3月28日失踪

捜査・救出を懸命に訴え続ける

同年4月9日 伊予警察署へ保護願い提出
外務省へ連絡

韓国警察署・釜山領事館へ保護・捜索願い
韓国慶州市警察署を何度も訪問し捜索依頼



母親 悦子さん

四国中央市人権対策協議会で講演(2010(平成22)年6月25日)

「拉致は人権を侵すテロ 救出を訴える」

悦子さんは、由美さんの失踪当時の状況について、「水も喉を通らず、地獄に真っ逆さまに落ちた気分だった。娘の写真を前に、いく度、涙したことか」と告白。何度も訪韓し娘の足跡をたどったことを振り返り、「拉致は国の主権や人権を侵すテロ、こんな無法が許されてはいけない」と強調し、救出に向け関心を持ち続けるよう支援を求めた。

突然 奪われた家族の幸せ



中学生当時のめぐみさん



横田さんご家族
幼い頃のめぐみさん(中央)

拉致された13歳の少女 横田めぐみさん

この日の朝、めぐみさんは、お父さん・お母さん、双子の弟と一緒に賑やかに朝食、元気で中学校へ出かけた。夕方、バドミントンの練習を終えて元気で帰って来る筈だった。

しかし、いつもの時間になっても帰って来ない。心配になった家族は必死で探した。警察も誘拐・事故・家出・自殺等、あらゆる事を想定して捜査を進めた。遺留品さえ見付からなかった。

後になって出てきた証言

お父さん・お母さんが必死で探していた頃、めぐみさんは工作員に連れ去られ、40時間もの間、真っ暗で冷たい船倉に閉じこめられていた。「お母さん、お母さん」と泣き叫び壁や出入り口を引っ掻いたので、手の爪がはがれ血だらけだったと言われている。

家族の悲しみの日々

めぐみさんがいなくなって、賑やかだった食卓は火が消えたようになった。町のあちこちを、めぐみさんの名前を呼びながら海岸を何キロも歩いた。夜になると二人で泣きくれた。どうしてこんな悲しい目に遭うのだろう。

1977年11月15日、北朝鮮工作員に拉致されて以来、悲しみの中、何の手掛かりもないまま33年の時が流れた。

ブルーリボン運動の趣旨

青いリボンは北朝鮮と祖国日本を隔てる日本海の「海の青」と、拉致被害者の方々と、その家族を唯一結んでいく「青い空」をイメージしている。拉致被害者の生存と救出を信じる意志表示として身に付けようという運動である。



ブルーリボン

生命と安全に脅威をもたらすテロ

拉致問題(1970~80年代)

北朝鮮工作員など → 多くの日本人を極秘裏に拉致

北朝鮮 2002(平成14)年 平壤の日朝首脳会談
拉致を認め謝罪・再発防止を約束

日本政府認定の拉致事案は17人

北朝鮮は13人(男性6人 女性7人)の拉致を認めた

(5人は帰国済み・8人は死亡と回答
4人については入境を認めず、その後の捜査協力を拒否)

拉致の目的

日本に潜入した工作員が日本人のようにふるまえるよう教育

- ① 北朝鮮工作員を養成するため
- ② 工作員に日本語や日本の習慣を教える教師が必要なため
- ③ 拉致した日本人になりすますため
- ④ 拉致後に北朝鮮国内で洗脳し、工作員にするため

金日成主義に基づく日本革命を行うための人材確保

政府に要望

拉致被害者の家族連絡会

制裁を含む北朝鮮政策で問題解決を
救出を求める765万人署名 総理大臣に提出

政府の総力を挙げて最大限の努力を尽くす



塩崎内閣官房長官・拉致担当大臣に救出要請 2007.1.25

〜拉致被害者に関心を〜

政府は世論で動く 皆さんの関心が一番の力
「もし、拉致被害者が自分の子どもだったら…」
「もし、愛する人や家族だったら…」

参考 愛媛県人権教育課ホームページ

愛媛県人権教育課

検索

「幸せへの道／拉致問題の解決に向けて 95号」を参照ください。